

## 基礎病態・社会医学演習

責任者・コーディネーター	情報伝達医学分野 平 英一 教授		
担当講座・学科（分野）	機能病態学分野、分子医化学分野、感染症学・免疫学分野、医学教育学講座、衛生学公衆衛生学講座、情報伝達医学分野、病理診断学講座、放射線医学講座		
担当教員	増田 友之 教授、古山 和道 教授、村木 靖 教授、佐藤 孝 教授、久保田 美子 准教授、石田 和之 准教授、佐藤 洋一 教授、吉野 直人 特任准教授、田鎖 愛理 講師、近藤 ゆき子 講師、上杉 憲幸 講師、藤田 泰子 助教、鈴木 智大 助教		
対象学年	3	区分・時間数	演習 14コマ 21.0時間
期間	前期		実習 0コマ 0.0時間

### ・学習方針（講義概要等）

医療の実践には、医学領域に関する基盤知識の修得ばかりでなく、個々の患者の病態生理を正確に把握し、適切な治療に結びつける問題解決能力を必要とする。そのためには、生命科学や衛生環境を含む基礎医学と各種疾病の病因、病態に関する知識を統合する能力が要求される。本演習では、2学年で学んだ基礎医科学の知識と3学年前期で学んだ疾病の病因・病態生理、診断に関する基盤知識を統合・整理する能力を演習形式で涵養する。

### ・教育成果（アウトカム）

診断・治療の実践に必要な、基礎医科学（基礎医学・生命科学）と疾病の病因・病態に関する基盤知識を統合し、病態生理を理解し問題を解決した結果を説明できる。

（ディプロマ・ポリシー： 4 ）

### ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	演習問題の作問意図を指摘できる。
2	演習問題の関連知識を説明できる。
3	正解を導くに至った基礎知識と思考過程を説明できる。

### ・講義場所

講義： 矢巾キャンパス西1-C講義室

・講義日程（コアカリは演習の元となる各講義に等しいことから省略する）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標 番号	コアカリ
演習	3/27(火)	1	機能病態学分野	増田 友之 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	3/27(火)	2	機能病態学分野	佐藤 孝 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	4/3(火)	2	病理診断学講座	藤田 泰子 助教	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	4/10(火)	2	分子医化学分野	久保田 美子 准教授	分子生物学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	4/17(火)	2	分子医化学分野	古山 和道 教授	分子生物学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	5/8(火)	2	機能病態学分野	増田 友之 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	5/10(木)	2	病理診断学講座	石田 和之 准教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	5/15(火)	3	放射線医学講座	鈴木 智大 助教	【特別講義】正常画像について	1、2、3	-
演習	5/15(火)	4	感染症学・免疫学分野	村木 靖 教授	微生物学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	5/22(火)	2	医学教育学講座	佐藤 洋一 教授	臨床解剖学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	5/29(火)	2	情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 講師	薬理学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	6/5(火)	2	衛生学公衆衛生学講座	田鎖 愛理 講師	疫学・環境医学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	6/27(水)	3	病理診断学講座	上杉 憲幸 講師	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1、2、3	-
演習	6/27(水)	4	感染症学・免疫学分野	吉野 直人 特任准教授	免疫学で履修した内容の演習	1、2、3	-

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	カラー図解 これならわかる薬理学 第2版	Heinz Luellmann, Klaus Mohr, Lutz Hein著、佐藤俊明訳	メディカルサイエンスインターナショナル	2012

・成績評価方法

総括評価：試験成績により評価する。  
 形成的評価：講義の最初に実施する択一式の演習問題の回答結果を用い、誤答が多い選択肢を重点的に解説し、学生にフィードバックを行う。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、図書館、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	デスクトップパソコン iMac	1	講義資料作成